

# 身延線鉄道唱歌

作詞 小澤 肇

作曲 多 梅稚（歌詞推敲協力 身延線鉄道唱歌の会）



ボーカロイド歌唱例

- 1 汽笛一声富士駅を我が乗る列車離れたり 三十九駅 九十糸 普通列車の旅とせん  
 きときいっせいふじえき わのれっしゃはな さんじゅうきゅうえき くじゅうきろ ふつうれっしゃたび
- 2 柚木堅堀入山瀬 近代製紙のおきたまち 三大仇討ち一つなる曾我兄弟の寺社もあり  
 ゆのきたてぼりいりやませ きんだいせいし さんだいあだうひと そがきょうだいじしゃ
- 3 右に靈峰仰ぎつつ 富士根にたなびく雲の帶 富士宮は登山口 浅間大社に湧き水に  
 みぎれいほうあおふじねくもおびふじのみやとざんぐちせんげんたいしゃわみず
- 4 西富士過ぎれば左に見える 安居山あたりの海の砂 川もないのに沼久保で しばらく富士山さようなら  
 にしふじすさみあごやまうみすなかわぬまくぼふじさん
- 5 三大急流富士川に 沿って行きます芝川 筍梅の産地なり 水とみどりに富める町  
 さんだいきゅうりゅうふじかわそ一ゆしばかわたけのこうめさんちみづとまち
- 6 戦国武将信長公 首塚西山本門寺 平家の若武者維盛の お墓が稻子の奥にあり  
 せんごくぶしょうのぶながこうくびづかにしやまほんもんじへいけわかむしゃこれもりはかいなこおく
- 7 稲子で駿河を後にして 甲州十島良いところ 昔は身延路御番所で 今は電車で自動車で  
 いなこするがあとこうしゅうとおしまよむかしのみのぶみちごばんしょいまでんしゃじどうしゃ
- 8 井出で寄畠内船へ 南部の火祭り空焦がす 奥州南部の祖の地なり 威風は今に伝えらる  
 いでよりはたうつぶなんぶひまつそらこおうしゅうなんぶそちいふういまつた
- 9 身延の駅に降り立ちて 日蓮宗の總本山 五重塔の再建に 枝垂桜木花添える  
 みのぶえきおたにちれんしゅうそうほんざんごじゅうのとうさいけんじだれさくらぎはなそ
- 10 信玄公の隠し湯の 下部で疲れ癒されん 湯の奥甲州金山は 武田氏支えた軍資金  
 しんげんこうかくゆしもべつかいやゆおくこうしゅうきんざんたけだしささぐんしきん
- 11 全国各地に木像を 遺せし木喰上人の 生まれは一ノ瀬微笑館 やまうえひとた  
 ぜんこくかくちもくぞうのこもくじきしよういんういちのせびしょうかんやまうえひとた
- 12 つづけて久那土甲斐岩間 印章で名高き里にして 向いの西島和紙づくり 書家の望み 叶う町  
 くなどかいわまいんしょうなだかさとむかにじしまわししょかのぞかなまち
- 13 視界が開けて鰐沢舟運の名残り今は無く 敷かれし鉄路に拠るところ甲駿交流夜明けなり  
 しかいひらかじかざわしゅううんなごいまなしうてつろよこうすんこうりゅうよあ
- 14 市川大門花火まち 知恵の文殊は甲斐上野 團十郎の出たところ ゆめゆめ共々忘れなん  
 いちかわだいもんはなびちえもんじゅかいうえのだんじゅうろうでともどもわす
- 15 笛吹川を打ち渡り 見よや果樹やら野菜やら 果樹王国と謳われる 甲府盆地の花輪なる  
 ふえふきがわうわたみかじゅやさいかじゅおうこくうたこうふぼんちはなわ
- 16 四方の山に目をやれば 雲突く山脈いや高く 老樹の深き善光寺 石和の湯けむり指呼の間  
 しほうやまめくもつやまなみたからうじゆふかせんこうじいさわゆしこかん
- 17 終点甲府は 中央線 乗り継ぐ人も数多く 踣躅ヶ崎の夢のあと 武田の遺跡守れかし  
 しゅうてんこうふちゅうおうせんのつひとかずおおつじがさきゆめたけだいせきまも
- 18 時は人を替えれども 山梨静岡両県の 明るく平和な郷づくり 身延線と共に栄えあれ  
 ときひとかやまなししおかりようけんあかへいわさとみのぶせんともさかみのぶせんともさか

（一 の箇所はのばして歌います。QRコードで富士宮歩こう会企画部長 増田敏幸氏制作のボーカロイド歌唱例を聴けます）

【平成28年度富士宮市NPO等市民活動促進事業】